

「言語研究センターの現在と未来」

松村文芳

言語研究センターの運営に参加して半年が過ぎました。暑くなってもエアコンが入らないような問題もありましたが、学生が健康を損うような事件もなく無事すごすことができました。これはひとえに事務局の係員の皆様が創意工夫で熱対策をされたおかげであり、LL教室で授業された先生方の忍耐のおかげであります。厚く御礼申し上げます。

幸い本年もLL教室等の言語研究センターが責任を負っている教室は稼働率がよく、先生方にもまた学生の皆さんにも快適な環境を提供できております。学習環境をたえず改善するため、先生方や学生の皆さんの御意見を事務局や運営委員の先生方にお寄せください。言語研究センターは学生、教員、事務職員がユーザー、利用者、管理者の立場から協同して運営している組織であり、大学内の組織として理想的な形態を取っています。従って当センターを運営する中心である運営委員会の責任は他の誰にも転嫁できないものであります。

御存知のように本学にはいくつかの研究所があり、それぞれが運営委員会を中心に自主的に活動しており、言語研究センターもその中のひとつとして長年の試行錯誤を通して現在の姿を確立しています。言語研究センターが他の研究所と異なるのは学生と教学上直接接していることであります。接点は教員と学生であり、教育設備等の利用や改善を進める直接の責任を負うのは教員であります。従って教員の教

育研究と設備の問題はきりはなせない関係にあります。言語研究センターの未来は学生、教員、事務職員が相互の役割をよく自覚して、自主的に発展させるよう努力することの中にのみあります。

私は長くLL教室を使用してきましたが、現在は使用していません。現在の担当科目がLL教室のような設備を必要としないからです。1クラスの学生数が27名ですので、一人ずつ、徹底的に個人指導が可能であるためです。大学に入学してはじめて学習する外国語は最初の一年間が決定的です。これは一歳から四、五歳までの幼児が親の言語を修得するのに似て、言語が確定される時期にあたります。したがってこの期間に正確な指導を受けることは新入生にとって決定的に重要です。中国語には音の高低変化を一音節の中にも「声調」があります。子音と母音だけで音節を構成する言語の場合はまだ矯正ができますが、「声調」は一定時期（おそらく一年半位）をすぎると矯正できなくなります。

私は何度か三、四年生と大学院生の声調を矯正しようところみましたができませんでした。おそらく子音、母音とは異なる脳のメカニズムが働いているのでしょう。私の科目は高度な機器を使用するところまでは必要なく、生徒が私の唇をみつめ、発声される音をじかに聴きながら何度も何度も訂正をくりかえす極めて古典的方法を採用しています。

ことばの意味変化のプロセス

— 自家撞着の語 —

水野光晴

ことばは生きもののように、発声や綴りだけでなく、その意味も古くから無数の変化を重ねてきたし、今もなお変化しつつある。すなわち、あらゆる単語にはそれなりの由来があり、そのあるものはしばしば非常に驚くべきものであったり、想像を絶するものであることがあるため、一旦その楽しみを味わうと病膏盲の境地に入ることになる。

例えば近頃の英語教育ですっかり人気のなくなった‘grammar’という語は、ギリシャ・ローマ時代では「ギリシャ語やラテン語およびそれらの文学の研究」を意味していた。しかし、古典ラテン語以後は「ことばの言語学的研究、文法 (glomeria)」の意味になった。さらに、中世のイギリスでは、ラテン語文法は、一般大衆の理解を超える神秘的な学問であり、神秘的な美しさ、心を奪う魅力があった。そこで、‘glamour (または glamor)’に「神秘的な魅力、性的魅力、魔力」という意味が生じたのである。また、ウォルター・スコットは、スコットランド方言であったこの語を文学に取り入れた最初の人であった。なお、この語には日本語で用いられる「肉体美人」の意味はない。

また、最近の医学技術の進展で、臓器移植が盛んになっているが、臓器の提供者は依然極めて少ないことがその業界の問題となっている。ところで、その提供者を指す英語は‘donor’であるが、その語源はラテン語の‘dōnum’「贈り物」→‘dōnāre’「贈る」から古代フランス語の‘donner’→中世フランス語の‘donneur’「寄贈者」からきている。他方、日本語の旦那はサンスクリット語のdānā「寄贈」+pati

「主人、君主」からきたdānā-pati (檀那波底)の省略で、その意味は「寺のために金品を施す信者、施主」であった。その後意味が変化して「ひいき客、夫、主人」という意味になった。さて、この‘dānā’と‘dōnum’の2語はともに、印欧言語のdō-「与える」から来ており、同じ語源のことばであることが確認されている。いずれにせよ‘donor’と「旦那」のように、数千年前にインドで使われていた言葉が、今や一方ではヨーロッパの端のイギリスで、他方ではアジアの東端の日本で用いられていることを考えると、言葉の不思議な縁を感じざるをえない。

同じような経緯をたどった語に‘war’「戦争」と‘guerrilla’「ゲリラ」がある。‘war’の語源は西ゲルマンのフランク語の‘waddi’「約束」→‘werra’「争い」が古代北フランス語で‘wege’→‘werre」となり、それが古英語に入って中世に‘warre’→‘war」となって今日の英語に定着した。他方、古代北フランスでは、ゲルマン語口語の/w/音が極端に強調されて/gw/となり、中世には/g/となった。それゆえ、古代仏語(中央)では‘waddi’が‘gwage’→‘guerre’「戦争」となり、スペイン語に入って‘guerra’となった。その後ナポレオン戦争でナポレオンがイベリア半島を侵略したとき、スペイン軍は盛んにゲリラ戦法を用いた。このスペイン語の‘guerrilla’は‘guerra’に指小辞-illaがついたもので「小さな戦争」を意味したが、その戦争を報告したウエリントン公の報告書(1809)によって英語に導入され世界的な市民権を得ることになった。このようにして‘war’と‘guerrilla’は同じゲルマン語の祖先から生まれて、さまざまな

国々を巡りながら、それぞれの土地柄の色合いに姿を変え、最終的には英語において再会したことになる。さて、ことばの意味の変化にはいろいろなタイプがあって一筋縄ではいかないが、その意味変化が意図的に行われたものと、日常の会話のやりとりの中で徐々に生じたものがある。そこで文献からそれらのタイプを分類すればつぎようになる。

(1) 品詞転換 (Functional Shift) ある品詞がそのままの形で、他の品詞になり、それにとまって生じた意味変化。

audition「オーディション→審査する」、finger「指→指でいじる」、influence「影響、勢力→影響力を及ぼす、感化する」、star「星→スター(として出演する)」、figure「姿→人物、数字、想像する、計算する」、flower「花→花が咲く」、number「数→数える」、word「語→言葉で話す」。

(2) 語音連想 (Phonetic Association) ある類似の語の連想で生じた意味変化。

motherly「母のような→やさしい」、bull「雄牛」→「あばれん坊」、wolf「オオカミ→残忍な人、貪欲な人」、change「変化→交替、小銭、釣り銭」

(3) 省略化 (Omission) 語形の一部を省略して使用することによって生じた意味変化。

carrum「二輪馬車」→car、newspaper→paper「新聞」、private soldier「公的階級のない兵卒」→private「兵卒」、portable camera obscura「携帯用暗室」→camera「部屋→カメラ」、disport→sport、photograph→photo、omnibus→bus、caravan→van、pianoforte→piano、influenza→flu、taximeter cabriolet→taxi(or cab)、zoological garden→zoo、exposition→expo。

(4) 共感法 (Synesthesia) ある音からある色を感じるように、ある刺激によって生じる別種の感覚による意味変化。

sweet「甘い(味)→良い(香り)、心地よい(音、声)」、warm「暖かい(温度)→暖かい(色)」、loud「高い(音)→派手な(色、柄)」、clear「はっきりした(形

→明瞭な(音)」、dark「暗い(明度)→黒い、濃い(髪、肌、眼)、陰気な(顔色)」

(5) 代用法 (Substitution) その語の指示物が変化しても以前の語で代用すること。

wagon「荷車→小型トラック」、horn「角→(楽器)ホルン」、cavalry「騎兵隊→機甲部隊」、bench「ベンチ→判事」、captain「首領→船長、機長」film「薄膜→映画」

(6) 特殊化 (Specialization) 上位概念の語を下位概念の特定のものに用いること。

hall「建物→広間、玄関」Bible「本→聖書」day「昼→一日」、dome「家→屋根、円天井」、cloth「布→衣服」、poet「作る人→詩人」、wife「女→妻」、spinster「糸を紡ぐ人→未婚女性」、worm「爬虫類→虫」、room「空間→余地→部屋」

(7) 一般化 (Generalization) 下位概念のある語を一般化して用いること。

bar「棒→カウンター、食堂」hand「手→人手、人」、carry「車で運ぶ→運ぶ」、dish「皿→食器、料理」、companion「共にパンを食べる人→仲間」、board「板→食卓→委員会」

(8) 抽象化 (Abstraction) 明確な形を持った対象を指示する語を、それと関連する抽象的な意味に適用する意味変化。

pen「ペン→文筆」、head「頭部→知識」、sword「剣→軍事力、戦争」tongue「舌→言語、ことば」、cradle「揺りかご→幼児」、jail「刑務所→拘留」

(9) 具象化 (Concretization) 抽象的意味の語を関連ある具体的な語に適用する意味変化。

curiosity「好奇心→骨董品」beauty「美→美人」、love「愛→愛人」、honour「名誉→勲章、表彰状」authority「権威、権力→権威者、当局」

(10) 語義上昇 (Elevation) 語義が上位の意味に改善されるような意味の変化。

fortune「偶然、運命→幸運」、knight「従僕、少年→騎士」、terrific「恐ろしい→素敵な、すごい」、minister「召使→大臣」、guest「異国人、敵→客」

(11) 語義下落 (Degeneration) 語義が下位の意味に悪化するような意味の変化。

maid「乙女→女中」、homely「家庭的な→不器用な」、terrible「おそろしい→ひどい」、villain「村人、農民→悪者」、chef「料理長→コック」、silly「幸福な→無邪気な→頭が弱い→愚かな」

(12) 反語法 (Irony) ある語がもつ本来の意味とは逆の意味で用いる場合。

fine「立派な→ご立派な→酷い」、nice「無知の→単純な、つまらない、難しい→繊細な、上品な、素敵な」、silly「愚かな→頭が弱い→無邪気な、幸福な」

(13) 類推法 (Analogy) ある語の意味を類似のものへの拡張から生じた意味変化。

star「星→花形、人気者」、crane「鶴→起重機、クレーン」、eye「目→ジャガイモの芽針の目」、key「かぎ→手がかり、重要人物」、summit「山頂、頂上→首脳会議」

(14) 換喩法 (Metonymy) 語の指示対象に随伴するもので代表させる場合。

china「中国→陶器」、sandwich「サンドイッチ伯爵→サンドイッチ」、White House「大統領官邸→米国政府」、canvas「帆布→絵画」、crown「王冠→帝王、君主」、cross「十字架→キリスト教国、キリスト教」、japan「日本→漆器」

(15) アンダーステートメント (Understatement) ある事実を控えめに言うことにより表現効果を強める場合。

pond「池→海、大西洋」den「洞穴→こじんまりした仕事部屋、安全地帯」

(16) 婉曲法 (Euphemism) 本来の語義を遠回しに表現する手法から生じた意味変化。

fairy tale「童話→嘘」、pass away「立ち去る→「死ぬ」、natural child「自然の子→私生児」、toilet「化粧台→トイレ」、undertaker「引受人→葬儀屋」、naive「純真な→単純な、幼な、だまされやすい」、uncle「おじ→質屋、連邦捜査官 (Gメ

ン)」

(17) 誇張法 (Hyperbole) 語義を誇張して表現する手法から生じた意味変化。

skyscraper「空をこすもの→超高層ビル」、adore「崇拜する→大好きである」

さて、10月も半ばを過ぎてコスモスが秋風にゆれる頃になった。このコスモスという語には、「宇宙」という意味もあるがなぜだろう。一説には、かつてギリシアのピタゴラスがその完全な秩序と調和をもった宇宙を‘kosmos’と呼んだことから‘cosmos’に「宇宙、秩序、調和」などの意味が定着したのである。他方、18世紀末(1791)にスペインの王室植物園長カバニレス神父がメキシコから運ばれた花にその優美な葉から「コスモス」と命名したことからその名がついた。このように一見全く無縁と考えられる意味が一つの語に定着することもある。

また、花を意味する英語はフラワーであるが、‘flower’と‘flour’は同音語である。これも実は、1300年頃まで「花、最良部、小麦粉」を意味する語を‘flour’又は‘flor’と綴っていたのであるが、1349年頃から、‘flower’の綴りが現われ、それ以後‘flower’と‘flour’は無差別に用いられるようになった。しかし、その後1830年頃から‘flour’が現在のように「小麦粉」の意味に限定されるようになったのである (BDE)。

ことばの意味の変化は、上記のルールにもとづいて意図的に生じるばかりでなく、日常会話の中でも自然に少しづつ起こっている。なかでも驚くべき変化は反語法によるものであろう。たとえば、‘fast’には本来「固定した、しっかりした、速い」などの意味があったが、「速い」→「手が早い」→「淫らな」→「だらしない」と全く逆の意味に転化してしまった。同様に‘nice’も上記のように自家撞着的な意味を抱えているので慎重にならざるを得ないと自戒している。

文献紹介

Lyle Jenkins (2000), *Biolinguistics : Exploring the Biology of Language*, Cambridge University Press.

伊藤克敏

近年の言語学と生物学との関係についての研究は Lenneberg (1967) *Biological Foundations of Language* に端を発するといってもよからう。言語の生得論を唱えていたチョムスキーはレネバーグの研究に強い関心を示していたが、著者はチョムスキーの門下生でザルツブルグ大学やウィーン大学で教えており、1979年には彼が中心になって、ザルツブルグ大学で開催された L S A (米国言語学会) 夏季大会では *Biology and Language* というテーマが取り上げられた。筆者も偶々その大会に参加し、神経言語学者で知名の Harry Whitaker の講義を興味深く聴いた。1980年には著者が中心で Harvard Medical School *Biolinguistics Group* が結成され、脳生理学者の Norman Geschwind も加わった。

生物言語学の中心課題は次の5つであるとしている。

- (1) What constitutes knowledge of language? Humboldt's problem
- (2) How is this knowledge acquired? Plato's

problem

- (3) How is this knowledge put to us?
- (4) What are the relevant mechanisms of language?
- (5) How dose this knowledge evolve (in the species)?

言語は遺伝子に組み込まれたもので、習得されるのではなく遺伝子プログラムに沿って「成長 (grow)」する、という見解を取る。言語のタイプによって parameter-setting を行えば、後は自動的に言語習得は進むとする。複雑な言語構造を限られた不完全な言語資料 (poverty of stimulus) から帰納的に習得するのではない、とする ((2) のプラトンの問題)。

チョムスキーは反進化論者と Pinker & Bloom (1990) は決め付けているが、チョムスキーは条件付で淘汰 (selection) 説を認めている、とジェンキンは反論している。本書は internalist であるチョムスキー論への externalists からの批判に対する著者の反論が主体になっている。

★新着案内★

☆視聴覚資料

録音資料

- 新スペイン語入門
- すぐに役立つ
 - はじめてのスペイン語
- 話すフランス語の単語力
- すぐに役立つ
 - はじめてのフランス語
- すぐに役立つはじめてのハングル
- NHK スタンダード40ハングル

すぐに役立つはじめての中国語
英検2002年度版全問題集1~2級
Step Up リスニング

TOEIC TEST
はじめて受ける TOEIC TEST

直前準備テスト
TOEIC TEST 模擬試験

パーフェクト攻略
話す中国語の単語力

HSK中国漢語水平考試シリーズ
中検2002年版問題集1~4級

はじめての中国語会話表現600
ウィスパリング同時通訳

はじめての英会話表現600

英語で言ってみたいこの一言
英会話 3 step リスニング
Longman 完全バック

TOEIC TEST 入門・上級編
TOEFL TEST

リスニング完全攻略

英語基本単語2000、プラス2000

今日からはじめるフランス語
はじめてのフランス語

今日からはじめる中国語
本物の中国語を話そう!

中国語単語熟語決まり文句
自己紹介の中国語会話
中国語基本単語プラス2000

韓国語で歌おう！
 韓国語会話決まり文句600
 韓国語基本単語2000、
 プラス2000
 第5回韓国語能力試験1～6級
 フランス語の入門
 仏検3・4級必須単語集
 中国語ヒアリングマスター
 エクスプレス外国語シリーズ
 スーパースピーキング360
 基礎からはじめるTOEICテスト
 TOEIC TEST基礎文法攻略
 TOEIC徹底練習500題リスニング
 TOEIC リスニング
 速習ポイント30
 TOEIC テスト速習完成模試
 TOEIC テスト基本暗唱例文555
 TOEIC テスト実践問題集
 TOEIC テストリスニング攻略法
 TOEIC単語力強化1200語シリーズ
 めざせスコア600
 TOEICシリーズ
 スコア730をとるTOEICシリーズ
 TOEIC TESTパーフェクト対策
 Longman TOEFL TEST
 入門コース
 英語通訳技能検定1,2級
 仏検2001年問題集1～5級
 やさしいフランス語の発音
 第17,18回ハングル検定1～5級
 フランス語通訳ガイド2002年版
 自分のすべてを口にできる本
 中国語・韓国語
 Power Idioms シリーズ
 Power Words シリーズ
 教室で使う英語表現集
 日常英会話5000
 仕事で使う英語
 ビジネス場面の英会話

映像資料

Es Español 1～3
 コブラ・ヴェルデ
 カスパールハウザーの謎
 キンスキー我が最愛の敵
 意志の勝利
 聖山
 点子ちゃんとアントン
 ブリジットジョーンズの日記

Greening Up the World
 Zoom In On Japanese Culture
 中国早期30年代優秀電影作品
 こころの湯
 スタンダード40中国語会話
 ふたりの人魚
 スタンダード40ハングル講座
 アウトバーンコップシリーズ
 さすらい
 まわり道
 左利きの女
 アメリカの友人
 都会のアリス
 嘘つきヤコブ
 バズル
 どつかれてアンダルシア
 ベンゴ
 ローサのぬくもり
 山の郵便配達
 オー・ブラザー
 ムーランルージュ
 スコア
 ハリポッターと賢者の石
 A・I
 秘密の花園
 メメント
 ゴーストワールド
 陰謀のセオリー
 パーティカルリミット
 ロック・ユ
 長江三峡
 ただいま
 新北京物語
 八月のクリスマス
 ヒッチコックコレクション1・2
 ユマニテ
 インタビュー
 アメリ
 ロード・オブ・ザ・リング
 アメリカン・サイコ
 マルホランド・ドライブ
 オーシャンズ11
 グリーンフィッシュ
 われらの歪んだ英雄
 始皇帝暗殺
 プラットホーム
 スケッチ・オブ・Peking
 犬と女と刑老人
 哀戀花火

ルアンの歌
 太陽の少年
 ダブルタップ
 王さんの憂鬱な秋
 阿片戦争
 欲望の翼
 鬼が来た！
 活きる
 中国革命戦争実録
 春の日は過ぎゆく
 銀杏のベッド
 燃ゆる月
 ロッキー1～5
 ヒューマンネイチャー
 アミスタッド
 アンナと王様
 スパイゲーム
 キューティ・ブロンド
 マジェスティック
 ビューティフル・マインド
 スパイダー
 スターウォーズ・エピソード2
 司祭
 バグラーズ最後の賭け
 トンネル
 ギガンティック
 暗い日曜日
 クリクリのいた夏
 アモーレス・ペロス
 TOEIC ビデオ
 Our World Heritage
 CBS News World
 スノードッグ
 シッピングニュース
 陽だまりのグラウンド
 ウェディングプランナー
 天使のくれた時間

☆図書資料については図書館OPA
 Cで検索してください。

☆センターよりお知らせ☆

神奈川県大学ホームページ上の言語研究センター
 の内容を今年度より変更しましたのでご覧
 ください。
 また、何か質問、問い合わせ等に対して、電
 話の他に電子メールでも受け付けております。

E-mail: gengokenkyu-center@kanagawa-u.ac.jp